

流通業界を取り巻く環境（概観）

1 景気動向

(1) 消費動向

- ・勤労者世帯の消費支出、可処分所得の伸びは、下落又は横ばいの傾向。
- ・景気回復の兆しは見られるものの、消費支出は収入の低迷により伸び悩み状態。

【勤労者世帯における消費支出・可処分所得】

区 分	H20年平均	H21年平均	H22年平均	H23年平均	H24年平均	H25年平均
広島市						
消費支出	335,242円 (100.0)	341,586円 (101.9)	326,672円 (97.4)	324,779円 (96.9)	317,187円 (94.6)	329,779円 (98.4)
可処分所得	454,445円 (100.0)	465,180円 (102.4)	415,769円 (91.5)	449,029円 (98.8)	449,937円 (99.0)	423,130円 (93.1)

資料：「主要家計指標」（広島県統計課）

※1世帯当たりの1か月間の収入と支出。

※括弧内はH20年平均を100とした場合の指数。

(2) 物価動向

- ・世帯が購入する商品の価格変動を示す「消費者物価指数」は下落傾向。
- ・企業間で取り引きされる商品の価格変動を示す「企業物価指数」（旧卸売物価指数）やサービスの価格変動を示す「企業向けサービス価格指数」は横ばい又は下落傾向。

【消費者物価指数・企業物価指数・企業向けサービス価格指数】

区 分	H20年平均	H21年平均	H22年平均	H23年平均	H24年平均	H25年平均
広島市						
消費者物価指数	102.3	101.0	100.0	100.1	99.7	99.7
全国						
企業物価指数	105.7	100.1	100.0	101.5	100.6	101.9
企業向けサービス価格指数	100.9	98.2	96.9	96.2	95.8	96.2

資料：「消費者物価指数」（総務省統計局）、「企業物価指数」・「企業向けサービス価格指数」（日本銀行調査統計局）

※「消費者物価指数」及び「企業物価指数」はH22年平均を100とした場合の指数。

※「企業向けサービス価格指数」はH17年平均を100とした場合の指数。

2 流通に関する実態

(1) 商業販売額の推移等

- ・卸売業、小売業ともに、事業所数・販売額が減少。
- ・流通経路の長さを図る尺度である「W/R比率」（卸小売比率）は、年々下落しており、いわゆる卸売業の中抜きが進行。

【卸売業】（単位：事業所、百万円）

区 分	H11年	H14年	H16年	H19年
広島市				
事業所数	6,049	5,263	5,151	4,746
（うち商工センター地区）	429	386	394	376
年間商品販売額	8,175,042	7,275,838	6,657,749	6,343,512
全国				
事業所数	425,850	379,549	375,269	334,799
年間商品販売額	495,452,580	413,354,831	405,497,180	413,531,671

資料：「商業統計調査」（経済産業省）、「広島市統計書」（広島市企画調整課）

【小売業】（単位：事業所、百万円）

区 分	H11年	H14年	H16年	H19年
広島市				
事業所数	11,327	10,320	9,909	9,126
年間商品販売額	1,521,329	1,410,760	1,374,870	1,353,169
全国				
事業所数	1,406,884	1,300,057	1,238,049	1,137,859
年間商品販売額	143,832,551	135,109,295	133,278,631	134,705,448

資料：「商業統計調査」（経済産業省）、「広島市統計書」（広島市企画調整課）

【W/R比率（卸売業の年間商品販売額／小売業の年間商品販売額）】

区 分	H11年	H14年	H16年	H19年
広島市	5.4	5.2	4.8	4.7
全国	3.4	3.1	3.0	3.1

※上記の卸売業及び小売業の年間商品販売額を基に、簡便な方法により独自に試算。

(2) 中央市場取扱高の推移

- ・入荷量、取扱金額ともに減少傾向。

【青果】(単位：トン、百万円)

区分	H22年	H23年	H24年	H25年
入荷量	130,667	129,459	130,075	130,485
金額	33,995	32,108	32,390	32,650

【水産】(単位：トン、百万円)

区分	H22年	H23年	H24年	H25年
入荷量	41,661	37,727	35,442	33,630
金額	33,918	31,342	29,163	28,996

【花き】(単位：千本、百万円)

区分	H22年	H23年	H24年	H25年
入荷量	90,041	89,272	87,171	86,663
金額	6,668	6,427	6,444	6,313

資料：「市場年報」(広島市中央卸売市場)

(3) 広島市西部トラックターミナルの稼働状況

- ・空きバースは増加傾向。

【広島市西部トラックターミナルの空きバース】(単位：バース、全体バース数：108)

区分	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
空きバース	12	17	36	35

資料：広島市流通センター(株)からの聞き取り

3 商工センター地区の事業者が考える流通環境の変化

【広島市中小企業経営実態調査(平成23年10月広島市実施)】

- ・商工センター地区に事業所等を持つ企業・事業所542社に対するアンケート等
- ・回答のあった企業 463社(回収率85.4%)
- ・業種としては、卸売業、製造業(食品・印刷等)、運輸・倉庫業、小売業など

(1) 業績・従業員数の変化(5年前からの比較)

- ・売上高、営業利益が減収又は減益傾向にある企業は、約50%。
- ・従業員数が減少した企業は、約25%。特に運輸・倉庫業は約35%の企業で従業員数が減少。

(2) 立地環境等に対する評価

- ・全般的に「立地(アクセス・拠点性)」に対しては、どの業種も高評価。
- ・卸売業、小売業は「災害リスクへの準備・災害対応」、「市街地化など操業環境変化への対応」に対しては低評価。

(3) 進出後の業種の変化等

- ・業種構成が変化した企業は約13%。
- ・倉庫の使用面積は、全般的に大きな変化は見られないが、増加させた企業は卸売業が約24%と最多。
- ・配送用車両台数は、増加した企業と減少した企業がほぼ均衡。卸売業、運輸・倉庫業で動きが活発。

(4) 事業拠点の見直し

- ・事業所の拡張は運輸・倉庫業の約20%、新事業所等の設置は小売業の約25%、事業所の移転・撤退計画は小売業の約30%が検討。
- ・新たな事務所等の設置場所として、卸売業の約65%が市外を検討。